

『凡人』 作：ポチ子

『凡人』 作：ポチ子

私は天才ではない。

どこに行っても凡人だ。

見た目も、

話す話も、

書いた文字も、

描いた絵も、

特徴のない、つまらない、どこにでもある、

ゴミくずである。

天才を天才と崇め、

恩恵を受けながら、

その恩を返すわけでもなく、

何食わぬ顔で図々しく生きる、

愚民である。

私は天才ではない。

よって全てが許される。

何かを残さなくても、

成し遂げなくても、

貢献などしなくても、

全て許されるのである。

そして命が尽きたあと、

辛うじて私を覚えていた人が、

この世を去ってしまえば、

存在したことさえ消えてしまう。

よって、私は凡人である。